

ベルンドルフ市の基礎情報

- 人口 約9,000人
- 面積 17.57平方キロメートル(大迫町亀ヶ森地区よりやや小さい面積)
- 位置
 - オーストリアの首都・ウィーンから南南西へ約50キロ
 - 北緯47度(日本最北端の北海道稚内市宗谷岬から北へ約250キロの位置と同緯度)
 - 日本からは、成田空港を出発し、ウィーン国際空港まで約12時間。さらに車で約1時間
- 気候 日本と同じく四季があり、景色の変化で季節を感じることができる。気候は温暖だが、寒暖の差が大きく、花巻より冬の寒さは厳しい
- 時差 日本との時差は日本時間の方が早く8時間(夏時間では7時間)。日本が正午になったとき、ベルンドルフ市は午前4時(夏時間では午前5時)



ベルンドルフ市の魅力

■歴史ある都市

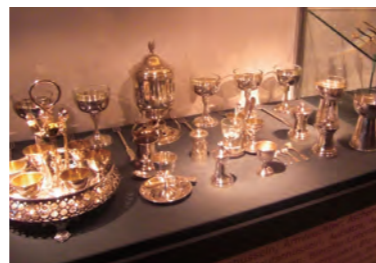
ベルンドルフ市は、12世紀ごろの記録にもその名があるほど、歴史のある都市で、現在でも築100年以上の家が数多く建っています。中でも、明治31(1898)年に完成したベルンドルフ市民劇場は、当時をしのばせる美しい劇場で、市の宝として愛され続けています。

■主な産業

- 代表的な産業は銀食器と松やにです。
- 銀食器など…19世紀半ばに、ドイツ出身のクルップ家がベルンドルフ市に金属洋食器工場を建設し、大きな成功を収め発展。ベルンドルフ市の銀食器は現在も国内外で多くの人々に愛用されています。さらに、近年はステンレスの特性を生かした製品にも注力。ステンレス製プールなどが国内外から注目され、数多く輸出されています
- 松やに…音楽の都ウィーンと同様、クラシック音楽が日常的に演奏されているベルンドルフ市では、弦楽器の弦に塗布するための松やにが多く生産されています。松やには香料や薬品にも使用されます



▲ベルンドルフ市民劇場



▲銀食器

ベルンドルフ市友好都市提携55周年

オーストリア共和国ニーダーエスタライヒ州ベルンドルフ市と旧大迫町が友好都市提携を結んでから55年。この間、地域の特色を生かした交流で友好の絆を育んできました。節目の年を迎えるに当たり、交流の歩みや両市民からのメッセージなどをお知らせします。

交流の始まり

ベルンドルフ市と旧大迫町は、オーストリアの国花でヨーロッパアルプスに咲くエーデルワイスと、早池峰山固有のハヤチネウスユキソウがよく似ているという、花が取り持つ縁で友好都市提携を結びました。

この提携の記念式典は、昭和40(1965)年10月12日、大迫小学校グラウンドで開催。以来、両市の市民が相互に訪問し、友好関係を深めてきました。

平成18年1月1日には、旧1市3町の合併により新・花巻市が誕生。これを受け、同年11月23日には、新・花巻市とベルンドルフ市との間で提携継続の調印が結ばれました。



▲エーデルワイス



▼ハヤチネウスユキソウ